

(公開学習Ⅱ) 第3学年1組 外国語学習指導案

授業者 JTE1 福井 洋子
JTE2 漆原 文彦
3年1組教室

1 単元名

豊かな会話体験を重ねよう『会話を楽しもう』

2 単元について

(1) 単元の価値と魅力

学習指導要領解説では、外国語活動の目標に「コミュニケーション能力」を養うことが掲げられている。また、外国語活動の目標は、三つの柱

- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

で成り立っている。これら三つの柱を統合的に体験することで、中・高等学校等における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地をつくろうとするものである。

本学級の児童は、英会話活動を始めて3年目になる。習い事として英語に関わってきた児童，入学して初めて英語に出合った児童など英語に対する知識の量も意識も使用経験の頻度も，児童それぞれである。大学構内を通過して登下校する児童は，英会話として英語を話したことがなくても，すぐ傍にある外国人（留学生）の存在を感じている。また，その他の児童においても，日常の家庭生活の中でも，スーパーやコンビニ，道路の通行において，すれ違う機会は少なくない。そして，校内においても，5年生が留学生と交流を深めている姿を見ているので，コミュニケーションの手段としての英語について，少なからず意識していると考えられる。

積極的に外国人と関わろうとする態度にはまだまだ到達しているとは言い難いが，これらの様子から，これまでの英会話の学習活動を通じて，コミュニケーションを取るための素地は養われてきていると考えられる。

しかし，英語よりも日本語や身振りやことばを優先してしまったり，挨拶の後に続く言葉が出てこなかったりと，「英語を使って意思疎通が図れた」というよりは，「外国の人とコミュニケーションをとることができた」という思いの方が児童自身には強いように思える。「もっと英語が話せるようになってみたい」，「外国の人にいろいろなことが聞けたり話せたりするようになってみたい」という思いを大切にしながら「英語を使ってコミュニケーションができた」という思いをより強くさせていくためには，児童の英語の語彙や表現をさらに広げていくことが求められている。

そこで，本単元では，場面に応じてどのような会話がなされているのか，どのような言葉が会話を成立させる言葉となるのかの定型文をテキストを活用しながら学習した後，児童それぞれが定型文を応用し，使用場面を広げることで，その時，その場に応じた会話の方法やスキルを身につけることができると考えた。

これらの表現に慣れ親しむことで，挨拶から始まる会話のベーシックな型が身につくと同時に，自信をもって返答ができるように意識付けできると考える。

本時では，今年度から使用している全学年共通テキスト「英会話たいそう Dancinglish カードブック1」をもとに，実際の会話の定型を想定して相手意識を持ちながら活動を行うことで，本単元で扱う表現に児童がより慣れ親しんでいくことを期待したい。

(2) めざす子どもの姿について

本学級の児童は、1・2年生の時に、英語の物語のCDを給食時に聞き流しをし、英語に触れる機会を多く持つようにした。そして、英会話活動の学習時間には、その物語を音読したり、日本語訳をすることを通して英語と日本語の語順の違いを気づかせたり、文字を書く体験をしたりしてきた。また、学校行事(実りの学校)において英語劇による発表をしたり、休憩時間や学習間の空いた時間を利用してチャンツ等を取り入れた活動をしてきた。低学年の特徴である「耳から入った英文をそのままの発音で口にできる。語句や文章をひとかたまりとして捉える。英語特有のリズムやイントネーションが身につくやすい。」などの事柄がある程度は養われていると同時に、英会話の学習の時間が楽しいと感じている児童が多い。

学習指導要領では、すべての教科領域において「言語活動の充実」を図ることを求めており、その確実な実施が必要であると考え。外国語活動においても、外国語を用いて、ALTをはじめ、留学生や友達など、他者との関わりを通じた体験的な表現活動を充実させることで、外国語でのコミュニケーションへの積極的な態度の養成が促進できると考える。また、外国の人とのコミュニケーションを取ろうとすることを通して、日本と外国の文化についての相互理解が深まると考える。

本校における外国語活動における『思考力』を、

①自分の思いや考えを「伝えたい」という意欲から派生する文章を構成する力

②相手の思いや考えを「受け取りたい」という意思から派生する単語を理解する力
と捉えている。

これまでの活動や生活経験の中で学んだ外国語（英語）の語彙や表現を使って、相手意識を明確にもって互いに伝え合い、相互理解を図ろうとし、かつ意思疎通を図ろうとする意欲や意思こそ、外国語活動で大切にしたい思考力であると考え。それらの活動の中で生まれる種々の課題に対して、「どのようにアプローチするのか」「どのようにコミュニケーションを取るのか」を児童自身が試行錯誤していくことで、伝え合えたときの達成感や成就感が得られるのではないかと考えている。これらの活動（経験）を重ねることにより、児童自ら、積極的に関わろうとしたり、自分の考えを主体的に述べようとしたりする意欲と態度を身につけながら、表現のスキルを高め、「自分は外国語（英語）を使ってコミュニケーションを取ることができる」という自信を児童に持たせていきたい。

(3) 本時に向けた教材研究

本単元では、日常の会話の定型をもとに、より相手の思いや考え、個人の情報などを受け取るための会話体験を重ねることをねらいとしている。日常の生活や遊びなどいろいろな場面に応じた会話の型を知らせ、CDの音楽を流し、リズムに乗って繰り返し練習をさせていく。さらには、その定型の会話文の適応と応用の範囲を広げられるようにペアまたはグループでの会話練習を進めていくように働きかける。

本時では、児童が既習の会話の定型文を用いて、それを与えられたシチュエーションに合うようにアレンジしながら会話を楽しむ活動（Activity）を中心に行う。グループで外国人と出会ったときの会話の大まかな流れを場面ごとに組み立てていくことで、実際の場面でも臆することなくリズムの良い会話が交わせるようになるのではないかと考える。

また、国際化が進む現代に生きる者として、日本語で尋ねられて日本語で答えられるようなシチュエーションだけとは限らない。日本で生活していても、英語でコミュニケーションを取る必要に駆られることもあると考えられる。そういった点においても、英語でコミュニケーションを取ろうとすることができる態度や意識、スキルを養っていくことは価値のある活動である。

そして、機械的に記憶するだけではなく、それを活用しようとする意欲を高めるためにも、カードを用いて場面をイメージさせたり、児童が発音を注意深く聞こうとすることができるようにデモンストレーションを交えたりしながら、活動を進めていきたい。

3 単元構成

(1) 6年間を見通した系統的な学習活動の流れ

学年	指導体制	基本テキスト	教科書・物語(音読)	主な指導内容
1年	ALT+担任	英会話体そう Dansinglish カードブック 1		歌／日常会話／文字／ゲーム
2年	ALT+担任			歌／日常会話／文字／ゲーム
3年	JTE+担任		「3匹のクマ」	発音／日常会話／文字／音読
4年	JTE+担任	英会話体そう Dansinglish カードブック 2	「3匹のクマ」	発音／日常会話／文字／音読
5年	ALT+担任 JTE+担任		「Hi, friends! 1」 「チキンリトル(1)」	定型文／日常会話／文字／発展 文型／日常会話／文字／音読
6年	ALT+担任 JTE+担任		「Hi, friends! 2」 「チキンリトル(2)」	定型文／日常会話／文字／発展 文型／日常会話／文字／音読

(2) 単元目標

○相手に自分の気持ちや考え、思いを伝えるときの言い方、また、相手に尋ねられたときにする端的な返事の仕方について知るとともに、慣れ親しむ。

○英語で積極的に友達や外国の人に尋ねたり、聞かれたことに答えたりしようとする態度を養う。

○進んでコミュニケーションをしようとする態度を養う。

○言葉(英単語や文章表現等)について興味・関心をもたせ、自主的に調べたり、積極的に発音や表現をしたいという態度を養う。

(3) 本年度の単元配列(総時数20時間)

第1次 Hi! 気軽にあいさつしよう(5時間)

第2次 Sure. ひとことでもいいから返事をしよう(5時間)

指導資料

「ひとことでもいいから返事をしよう」英会話たいそう(Dansinglish)カードブック1(p6・7)

「ゲームをしよう」英会話たいそう(Dansinglish)カードブック1(p14)

「フォニックスアルファベット」フォニックスチャンツ(p6・7)

「3匹のクマ」音読教材

- 第1時 リズムに合わせて、声に出して読んでみよう
 第2時 リズムに合わせて、ジェスチャーを付けて言おう
 第3時 リズムよく会話しよう
 第4時 カードを使って、友達とスキットを考えよう
 第5時 スキットを覚えて、みんなの前で発表しよう …（本時）
 第3次 Thank you. はっきりお礼を言おう（5時間）
 第4次 What? 分からないことは聞きかえそう（5時間）

4 本時について

（1）本時目標

○カードをもとに物語を構成し、さらに、物語に合った会話を考えることを通して、進んでコミュニケーションを取ろうとすることができる。

○英単語の正しい発音や綴りを意識しながら読んだり書いたりすることができる。

（2）準備

（教師） 掲示用会話カード・配布用会話カード

（児童） skit 作成用ワークシート

（3）本時の展開 （○：教師の意図 ◇：支援 ◎：評価）

学習活動	教師の意図・支援・評価
1. Greeting & Warming up D: Let's start lesson. T: Hello, everyone! C: Hello, Ms. Fukui. T: How are you? C: I'm happy, thank you. T: What day is it today? C: It's Saturday. It's October twenty-fourth. T: How's the weather today? C: It's Sunny.	○気持ちや状態の会話では、児童それぞれが自分に合った表現となるようにする。 ◇リズムよく受け答えができるように、ジェスチャーを交えながら質問する。
2. Activity【英会話たいそう】 ①C Dに合わせてジェスチャーしながら、全員で歌う。 ②テキストのカードを確認しながら、会話練習をする。 ③場面カードを選び、その場面の様子を考えながらグループで会話練習をする。 ④グループで作ったスキットを、みんなの前で発表する。	○JTE1が活動の流れを確認する。 ○作成したskitの練習を行う際に、分担した言葉の確認、順番の確認、リズムやタイミングを合わせるように進めていくように指示する。 ◇周囲の友だちに伝わるような大きな声で表現できるように、大きな声で発表している児童をほめ、表現のモデルとする。 ◇他のグループの発表を聞いて、よかったところをほめ、意欲をかき立てるようにする。

⑤発表グループのテーマや場面をクイズ形式で当てる。 ⑥各グループの発表を聞き、感想を交換し合う。 3. Learning【フォニックス】 ①アルファベット表をもとに、26文字の音声を一つずつ練習する。 ②“b”と“d”の発声を取り上げ、次のReadingの活動で出てくる単語の発音練習をする。 b… ・bear ・body ・beautiful d… ・door ・down ・dance 4. Reading【フォニックスの応用】 ①ジャズチャンツで “Goldilocks & Three Bears” の音読をする。 5. Greeting ・本時の振り返りをするとともに、次時の活動を知る。 D: That's all for today. T: Good bye. C: Good bye. Thank you.	◇発表をしっかりと聞き、どのテーマで会話がなされたのかを考えるように伝えることで、集中して会話の流れを聞き取るようにする。 ◎設定された場面に合った物語を考え、学習した会話形態を用いて発表をしている。 ○正しい発音になっているかどうか確認しながら、アルファベットの音声発声をリズムよく、カードを用いて進める。 ◇一文字ずつの音声をしっかりと確認しながらし、どのような口の形、舌づかい、息の吐き方をすればよいのか分かるように、例示する。 ◎英文字、英単語の発音や綴りに気をつけながら、リズムよく、正しく練習をしている。 ○登場人物の気持ちになって音読するように、声の出し方などで工夫するようにさせる。 ◇テンポよく、チャンツ特有の繰り返しを楽しみながら音読するよう、リズム打ちをする。 ◎声の抑揚や大きさ、発音に気をつけて音読をしている。 ○本時の活動の中で、特によかったところを児童に伝え、本時の活動の振り返りをさせる。 ○次時の活動についてふれ、見通しを持たせるようにする。
---	--